

# ゼミナール決定参考資料

P

教員名： 永山 博之

指導教科： 国際政治学

## ① 研究・関心領域内容

安全保障問題、特に東アジアにおける対立と同盟関係、さらにテロや非正規戦、認知戦を含む紛争形態の変化について関心をもっています。また、日本、中国、韓国を含む東アジアにおけるナショナリズムについても考察しています。今、最も関心があるのは、生得的な要素が人間の思考と行動に与える影響です。

## ② 自己紹介<こんな学生を募集しています>

関心を持っている対象はなんでもかまいません。社会的問題について考える際に、客観的な社会のしくみと自分の主観的意見を区別して、物事を考えられる人、あるいはそのような思考方法を持とうとしている人に来てもらえるとうれしいです。

## ③ 現在の人数： 三年生 10 人 四年生 8 人

## ④ ゼミのテーマ、方針、学習・研究内容

3 年次では、最初に国際政治か政治学の読みやすい本を読み、その後は特定のテーマについての概説書、一般書を読んでいきます。具体的な問題と基本的な理屈を関連付けて問題を考えられるように配慮しています。去年は末近浩太『中東政治入門』2020、岡山裕『アメリカの政党政治』2020、梶井厚志『戦略的思考の技術—ゲーム理論を实践する』2002、境家史郎『戦後日本政治史』2023 などを読んでいます。

4 年次では、前半は 3 年次の作業を継続しますが、後半は学生個人でテーマを選んで、まとめてもらうことを検討しています。

たまに読書会、映画会をします。

## ⑤ 授業形態（発表、討論、講義など）

基本的には本を輪読します。1 冊の本を分担して報告し、報告者は論点を指摘して、それをもとに討論します。さらに時事ニュースを持ってきて、自由に議論するプログラムをあわせて行なっています。

プラス、たまに読書会をします。少しでも本を読む習慣をつけてほしいからです。

## ⑩ 最後にゼミの PR をお願いいたします！

大学に入ってからすることといえば、知識の習得だと考えがちですが、それよりも考える方法を習得することが大切です。そのためには、自分の立場を他者との議論を通じて客観的な視点から見直していくことが必要です。そのための方法を学ぶことが大学教育の意義のほとんどすべてだと言っているのではないのでしょうか。

国際政治や安全保障をその主な材料にしますが、わからないことはこちらで教えますので、予備知識は不要です。それよりも人間と社会の関係について、考えを深めていこうとする人に来てほしいとおもっています。

## ⑥ 現在のゼミの様子、雰囲気

学生の数が増えたのですが、なんとかみんなて議論できる程度の人数です。できるだけ何か発言してもらっています。どんなことであっても、発言することと、参加することを後押しするようにしたいと思っています。

## ⑦ ゼミ生に希望すること

最初から立派なことを話せるわけではないので、とりあえず質問することです。そのうち質問の仕方がわかってくると、他のこともいろいろと話ができるようになります。まあ、何かしゃべればいいです。

## ⑧ 成績評価の方法

参加と発言でのみ評価します。

## ⑨ ゼミ生の選考方法

面接のみです。

☒ このゼミ決定用資料の内容を法学部ウェブページにて公開してよい場合はチェックを入れてください。